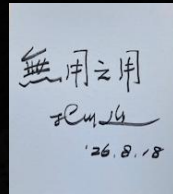
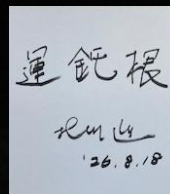


SSH公開特別講演会 8月18日

2025年ノーベル化学賞を受賞された京都大学の北川進先生をお迎えして講演会を開催しました。

【生徒の感想】

- ・「運・鈍・根」の特に「鈍」の一度立ち止まって考えてみるは大事だと思った。今できなくても後でできるようになればいいという気持ちになった。
- ・無用の用に関する話が面白かった。無用なものはあまり注目されないから無用とされているが、無用だからこそ独創性があることが分かった。
- ・「お金持ちになることよりも有名になることよりも自分の興味を大切にする」という言葉が心に残った。
- ・「常識に疑問をもった。」というのが気になった。正しさばかりに囚われずいろんな視点が必要なのだと思った。
- ・分からないことをすぐにあきらめるのではなく「なぜだろう」「おもしろい」と思う気持ちを大切にしていきたい。
- ・人に教えるにはその内容を完全に理解していなければならない。自分の言葉で説明できなければならない。
- ・「好き」とか「興味」は本気になればこんなにも人を動かすのだと感じた。
- ・「本は自分の知らない世界を教えてくれる。」という言葉が胸に響いた。
- ・redundancyがあれば創造できる。
- ・じっくりと自分で考えることを学んだ。



サインいただきました！

【講演内容】

自身の研究(MOF)に関すること、ノーベル賞受賞時のことなどユーモアを交えてお話しされました。最後には高校生へのメッセージとして3つの言葉を紹介されました。1つ目はパスツールの言葉

「幸運は準備された心の中にのみ宿る

(Chance favors the prepared mind.)」

2つ目は「運鈍根」特に根の部分、続けることが大事であると強調されました。そして3つ目は「無用の用」一見役に立たないと思われることも実は重要な役割を果たしているとのこと。いずれも自身の経験に基づく示唆に富む言葉でした。



課題研究紹介

数学分野



3年生理数科では3人1組で10チームが課題研究に取り組んでいます。その研究内容についてシリーズでお伝えします。

研究テーマ「NBAとBリーグ、その実力差の正体」

NBAとBリーグのレベルの差は大きいことが知られている。私たちはそのレベルの差をプレーの要素や貢献度の観点から可視化したいと考えた。Bリーグ2024-2025シーズンに所属するNBA試合出場経験のある選手のBリーグとNBAでのスタッツを使い、階層的クラスタリングを用いて選手のプレイスタイルを分類、グループごとにスタッツのヒートマップを作成した。また、各選手のEFFを計算しリーグごとで比較した。その結果、Bリーグではオフェンスリバウンドの強い選手が重宝される、NBAとBリーグでは活躍するための要素が異なる、NBAで活躍できなかった選手もBリーグでは貢献できていることが分かった。今後の展望として、2024-2025シーズンでも調べることやNBAとBリーグのレベル差を可視化する指標を作成することを考えている。

